

# やすらぎ通信

Vol.30 平成 25 年 6 月 お盆

平成 25 年 お盆

発刊不定期 横浜やすらぎの郷霊園管理事務所 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町堀谷 1749-1  
☎045-924-0210 FAX:045-924-0239 URL: [y-yasuraginosato.jp](http://y-yasuraginosato.jp) Eメール: [info@y-yasuraginosato.jp](mailto:info@y-yasuraginosato.jp)



6月下旬、源氏蛭を見つけました。近所の人によると隣の霊園がある所はもともと沼地で蛭が多く生息していたようですが、やすらぎの辺りでは珍しいそうです。こっちの水は甘いぞ♪

\*\*\*\*\* ご案内 \*\*\*\*\*

## ◇やすらぎ寺子屋のご案内

善光寺院代による椅子坐禅指導と修証義についてのお話しです。週末のひと時、仏教に親しむ時間を如何ですか？ 宗教・宗派不問です。 詳細はお気軽にお問合せ下さい。

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 第 27 回 7 月 6 日 (土) | 第 30 回 10 月 12 日 (土) |
| 第 28 回 8 月 4 日 (日) | 第 31 回 11 月 3 日 (日)  |
| 第 29 回 9 月 7 日 (土) | 第 32 回 12 月 1 日 (日)  |

於 管理棟 2 階 午後 2 時～ 1 時間程 参加費無料

「生を明らめ死を明らむるは、仏家一大事の因縁なり」から始まる修証義。般若心経のお話しが終わり、次は修証義を中心に勉強していく予定です。共に学び、お互い心に残る言葉を一つでも見つけていただければと思います。お気軽にご参加下さい

## ◇善光寺講座 ～『論語』からのおはなし～ 講師 東郷 敏 先生

東郷敏先生が軽快なユーモアを交え、日常の生活に活用できる生き生きとした『論語』の世界へと誘います。老若男女問いません。是非ご参加下さい。

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 第 7 回 7 月 7 日 (日)  | 第 10 回 10 月 14 日 (月) |
| 第 8 回 8 月 18 日 (日) | 第 11 回 11 月 10 日 (日) |
| 第 9 回 9 月 8 日 (日)  | 第 12 回 12 月 8 日 (日)  |

於 善光寺客殿 (港南区日野中央) 午後 3 時～ 1 時間程 参加費無料

## ◇善光寺一斉法要

善光寺では檀信徒の皆さまが集まり 一緒に読経したり、法話を聞いたりする一斉の法要を年 5 回執り行っています。春と秋のお彼岸・盂蘭盆施食法会・お正月と節分のご祈禱です。

やすらぎの郷霊園にご縁を結ばれた方々もお参り頂けます。

ご希望の方はお気軽に管理事務所までお問合せ下さい。

## 《お盆のご供養について》

○ 7月盆 7月13日(土)～7月16日(火)

○ 8月盆 8月13日(火)～8月16日(金)

『お盆って本当は7月なの?』

時々このような質問を受けます。7月盆と8月盆、皆さまはどちらでなされますか?

お盆の時期は、主に首都圏では7月、地方では8月とされています。

やすらぎの郷霊園のある旭区周辺では8月にされる方が多いようです。

ウラ盆とも言われますが、7月が表で8月が裏とかではありませんよ(笑)

お盆の行事、その由来は……

『仏説孟蘭盆経』では次ぎのように説かれています。

お釈迦さまの弟子に神通力第一といわれた目連という方がいました。神通力とは今でいう超能力。目連はある日自分の母親があのお世でどんな暮らしをしているのだろうと思い神通力を使ってあのお世にいる母親を捜しました。優しい母だったからきっと極楽にいらっしやるだろうと捜しますが極楽にいない。もしやと思い捜して行くと餓鬼道というところで骨と皮だけの迷える魂となった母を見つけます。目連は泣き叫びながら食べ物と水をお母さまの口もとに運びますが、それもたちまちに炎となって燃えてしまい。食べる事ができない。神通力ではどうすることもできず、目連はお釈迦さまに助けを求められます。

お釈迦さまは『目連よ。おまえの母はおまえにはとても優しい母であった。しかしおまえを可愛がるばかりにそれがむさぼりの心をうみ、鬼道にいつてしまったのだよ。目連よ、おまえの母のために7月15日に修行僧たちに対し敬愛の思いをこめて、出来る限りの飲食をほどこしなさい。その功德が母を救う』と諭されます。目連はその通りに行い母おやは救われたという物語。この話が7月15日にお盆供養を行う由来とされています。この7月は旧暦のことですから、新暦では8月。ひと月遅れで15日に行う事が多くなります。地域によっては旧暦の7月15日(今年は8月21日)に行う場所もあります。農作業の忙しい時期を避け、夏野菜を収穫しご先祖さまにお供えできる時期にお盆を迎えたとも考えられています。

お盆の字は食べ物をのせる「おぼん」と同じ漢字ですね。これは食べ物をお供えする心、供養の心を表しています。

「ウランバーナ」という言葉が孟蘭盆の由来と言われます。意味は逆さまに吊るされたような苦しみ。亡くなられたご家族やご先祖さまをその苦しみから救いたいという願いがお盆行事の御霊祭りにつながっていきます。中国で作られた仏説孟蘭盆経(上記述)でさらに先祖供養の意味合いを増し、日本では『お盆には御霊が帰ってくる』という感覚が生まれてきます。日本書紀には「この年(推古14年:603年)より初めて寺毎に4月8日、7月15日に設齋せしめき」(齋とは食事・供養)とあります。実際に民間に定着していったのは鎌倉時代後期とも言われますが、お盆の行事は長い期間をかけ地方の様々な風習と折り混ざり合って今なお続いているのですね

霊園でのお盆期間中のご供養受付は、善光寺(曹洞宗)のみとなります。

墓前やご自宅でのご供養(棚経)も承ります。詳しくは管理事務所までお問い合わせ下さい。

◆お盆の迎え方 … 地域や宗派によって異なります。下記は一般的なものです。参考になさってください。

精霊棚 盆棚

真菰(マコモ)のゴザを敷いた台、もしくは白布を敷いた机などの四隅に青竹を立て、その上部に縄を張って結界とします。縄にはソーメン・ホウズキ・アワ・キキョウ・ユリ・花(みそはぎ)等を吊るします。お位牌はゴザの上に安置します。ローソク立て・香炉・花立て・お供え物なども置きます。

盆棚の一例



〈お仏壇の場合〉

盆棚を設けるスペースがない場合は、仏壇で精霊棚を兼ねます。仏壇の上部にホウズキを横向き飾り、手前にマコモのゴザを敷き供物類を供えます。簡単には、仏壇の前に机を置いて、白布を敷き、野菜やくだもの・花・団子などを供えます。

お供え物

この霊座にお花やお線香・お灯明・関伽水(あかみず:蓮の葉に数滴の水をたらしたもの)・盛物・果物・野菜・そうめん・餅・団子・故人の好きだった食べ物などを供えます。

また、水の子(みずのこ:洗った米に、なす・きゅうりなどを賽(さい)の目に刻んだものを混ぜて、蓮の葉の上に盛り付けたもの)も供えます。

きゅうりの馬・なすの牛

これは先祖の霊が「きゅうりの馬」に乗って一刻も早くこの世に帰り、「なすの牛」に乗ってゆっくりあの世に戻って行くようにとの願いを込めたものとされます。おがらや割り箸をさして形をつくります。

提灯 送り火 迎え火

お盆の間は精霊に自分の家を教えるために、仏壇のそばや軒先に新盆堤灯をお飾りします。

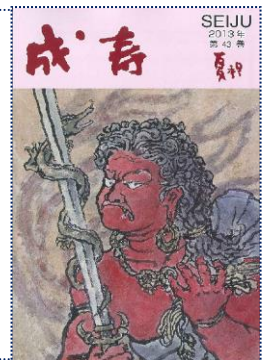
以前はお墓にお迎えに来て、提灯に火をつけてそのまま行列をして家に戻ったといひます。玄関先で迎え火を焚いてその火をまたぎ一緒に家に帰ります。住宅事情もかわり、提灯を吊るしたり、迎え火を焚けないこともあるかと思いますが、家に大切なお客様をお迎えする気持ちで準備を整えたいものです。

善光寺季刊誌

『成寿』43号発刊 ⇒

善光寺の色々な行持が掲載されています。

管理事務所においてありますのでご自由にお持ちください。



自分の道を外れることに親しみ、自分の道を歩むことに親しまない。人生の目的を捨てて快い楽しみだけにしがみつくと人は、自分の道を歩む人をうらやむようになる。

お釈迦さまのお言葉 (ダンマパダニ〇九)



## あなたがもう一度会いたい人は誰ですか？

『ツナグ』という小説、映画をご存じでしょうか？

一生に一度だけ満月の夜、死んだ人との再会を叶えてくれるという「使者（ツナグ）」。

生きている間に1回限り再会を依頼でき、また依頼を受ける死者としても1回限りの機会。

お互いに1回限りの機会を誰とつながるか。生者が依頼をしても死者が断れば会うことはできないし、既に誰かと会ってしまっていたらもう会うことは出来ない。依頼ができるのは生者のみ。死者は待つことしか出来ない。そのような設定の中で進む小説です。

突然死したアイドルが心の支えだったOL、年老いた母に癌告知出来なかった頑固な息子、親友に抱いた嫉妬心に苛まれる女子高生、失踪した婚約者を待ち続ける会社員…。ツナグの仲介のもと再会した生者と死者。それぞれの想いをかかえた一夜の邂逅は、何をもたらすのだろうか。

（「ツナグ」 辻村深月著 新潮文庫 より）

4つの話を中心に展開され、最後には涙が溢れてくる小説でした。

自分ならば、誰と会うことを願うか。自分が生者の場合。自分が死者の場合。そしてたった一度しか使えないそのチケットを本当に使うかどうか。会うことが幸せにつながるとは限らない事もある。自分が死んだ後、誰かに会いたいと願われることがあるのか。考えさせられました。

私ごとですが、先日家を購入し引っ越しをしました。

この「ツナグ」を読み終わり畳にゴロリとしてウトウトすると、20年前突然亡くなった父親が夢の中に出てきました。そして引っ越した家を見て「良い柱だな、良い床だな」とポツリと褒めてくれました。嬉しくて目を開けたら夢が醒めて消えてしまいそうで、夢とわかっていながら、目を閉じていました。ほんの数秒の事。もしかしたら自分の潜在意識下での願いかもしれないけれど、びっくりして、そして嬉しかった出来事でした。死者と再会する。つながるということ。なんだか暖かい気持ちになれたひと時でした。

でも夢で会うことも、なかなかないですよ。

「夢でもいいから、ちょっとくらい顔を見せてくれたらいいのに」そんな話しをよく耳にします。でも実際は生者の都合よく、死者は出てきてくれませんね。

お盆はいいですね。再会したい、つながりたい、そんな想いを形に表し行事をすることで心にほんの少しでも暖かい気持ちを届けてくれます。

しみじみと、お盆っていいなと思うこの頃です。

合掌

### 編集後記

都会育ちなのか、生まれて初めて蛍が光るところを見ました。



やすらぎの郷に舞い込んできた蛍。家に連れて帰り見る、そのみどり色の鮮やかなこと。光の尾を引いて舞う蛍は、亡き人が姿を借りてあの世から訪れた姿か？そんな幻想を抱かせるにふさわしい虫ですね。

